

中学生の「税についての作文」

福岡県筑後県税事務所長賞

税のあるべき姿

大木町立大木中学校

三年 久良木 優 妃

「君達は、税金がなかったらどうなるのか知っているかな。道路を通るときは、その道の所有者にお金を払わないといけない。もし自分の家が火事になってしまっても消防車がこなかったりたたくさんのお金を払わないといけない。税金って、とっても大事なんだよ。」

小学生のころ、税金の勉強のビデオでこういう話をしていたのを思い出した。当時の私は、この話を聞いて税金という制度があつてよかつたと思つた。税金がなければ、病院も学校もお金が高すぎて、行けないかもしれないからだ。私達があたりまえのように使っている教科書も税金のおかげで、お金に関係なく全ての子ども達が使うことができる。このことは、小・中学校で習つた。

「税とは何ですか。」こう聞かれたとき、私はこれ以外にも、たたくさんのことを答えることができるだろう。それは私だけでなく、他の中学生達もそうだと思う。私達は小さい頃から税について学んできた。だからこそ、税が今の高齢化社会にどれだけ大切なものなのかも知っている。そんな私の社会に対する疑問は、税の引き上げに反対する人達がいること

だった。しかし、この疑問はすぐになくなった。税を払いたくてもこれ以上引き上がると払うのが難しくなる人がいることを知つたからだ。今まで、どうして税を払わない人がいるのだろう。税は暮らしに必要なのに。と思つてきたが、「払わない」のではなくて、「払えない」人もいることを忘れてはいけない。しかし、そんな人達がいるのにも関わらず、高齢者は増え、若い人達は減り、税は増えていく。悪循環だと思つた。そんな悪循環を止めるには、私は税に対して理解がある人を増やす事と、若い人を増やす事が必要だと思つた。理解は、私達がこうして学んだようにこれからもたたくさんの子供達がしてくれるだろう。問題は若い人をどうやって増やすのかだ。私は、もつと子どもを育てやすい環境をつくると思う。この方法以外にもたたくさんあると思うが、これから先、税に理解のある子どもが増えるといい。

税金というと、今の社会の中で嫌がられる存在になつているのかもしれない。しかし、そうではなく、私達の暮らしを支えてくれて、幸せにしてくれるのが税の本当の姿なのだと思う。この税の姿にたたくさんの人がきづいて、そして、税がみんなの幸せにつながることを願いたい。

